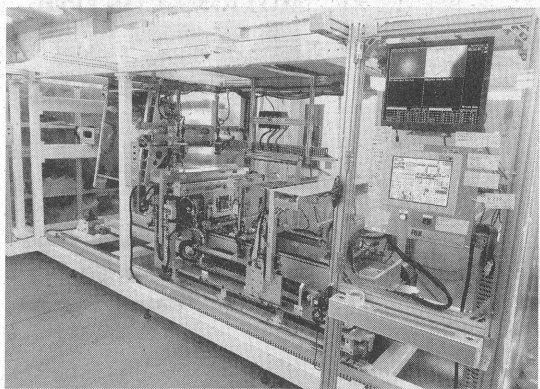


フレキシブル有機EL製造装置

後工程向け一括提案

FUK 自動化ニーズ対応

FUK（奈良県御所市、植村光生社長、0745・63・0101）は、曲げ加工が可能なフレキシブル有機エレクトロ・ルミネッセンス（EL）ディスプレイ製造装置の一括提案を始めた。三つの装置で構成しており、有機EL膜剥離や打ち抜き、フィルムの貼り合わせといった後工程を自動化できる。すでに次世代のスマートフォン向けに量産を目指すディスプレイメーカー大手数社と、商談を始めた。2018年4月期に売上高で17年4月期見込み比約4倍の50億円を目指す。



ガラス基板上で製造した有機EL膜を剥離して取り出す「デラミネーション」、ロール状のフィルム基板にタッチセンサーフィルムなどを貼り合わせる「大型ラミネーション」、曲面形状のカバナーガラスに沿って有機EL製造装置を一括提案（デラミネーション装置）

EL膜やセンサーフィルムを貼り合わせる「曲面ラミネーション」の連続する3工程を自動化する。

このうちデラミネーションはレーザー照射でガラス基板から浮かせた状態の有機EL薄膜を引きはがす工程を担っているが、引きはがす際に膜にダメージが生じやすいことから、歩留まりの向上が

課題となっている。FUKは基板側を曲げて膜にダメージを与えない独自方式を開発した。

国内外のディスプレイ大手は、18年以降にスマホ向け有機ELパネルに対応する。

ネルの量産を目指して投資計画を進めている。FUKはディスプレイ製造の後工程を一括して提案し、生産ラインの立ち上げを急ぐメーカー各社のニーズに対応する。

国内のディスプレイ大手は、18年以降にスマホ向け有機ELパネルに対応する。